

道徳だより

令和2年10月

～夢と笑顔と「ありがとう」があふれる上里東小学校～

10月に入り金木犀の心地良い香りが広がり、秋の深まりを一層感じることができます。上里東小学校では、修学旅行、生活科社会科見学が無事に終わりました。どの学年もバスや施設でのルールを守り、怪我なく楽しく見学できました。9月の「道徳だより」で紹介された「雨のバス停留所」の「社会のルールを守る」という目標を、どの学年も実践できました。日頃の授業を実生活で活かすことができたようです。

さて、10月の「道徳だより」は、3年生の「お母さんのせいきゅう書」です。御自宅でのお子さんとの会話を思い出しながら読んでいただければ幸いです。

<3年生の授業より>

「お母さんのせいきゅう書」

★無報酬の請求書から母親の思いを理解したいすけを通して、家族の一員として、進んで楽しい家庭を作ろうとする意欲を高める。

●お話の内容●

日曜日の朝、だいすけは一枚の紙をテーブルの上に置きました。「おかあさんへのせいきゅう書」と書かれた紙には、お手伝いやお掃除などの時のお手伝い代を請求する内容でした。お母さんはその紙を見てにっこり笑うだけ。そして、お母さんもだいすけに請求書を出します。しかし、その請求書には全て0円としか書かれていません。それを見ただいすけは、自分の書いた請求書のことを思い出すのです。

教師：「だいすけは、お母さんからの請求書を読んで、どんなことに気づいたのでしょうか。」

児童：「お母さんは、こんなに僕のために働いてくれた。」

「お母さんは一度もお礼をしてほしいなんて言わなかった。」

「お母さんは家族のために一生懸命、家の仕事をしてくれたんだな」

「自分も家族の一員なんだ。」



それをふまえて・・・



教師：「家族の一員として、みんなができることはなんでしょう。」

児童：「お母さんが仕事で大変だから手伝いをしたい。」

「家族に全部してもらんじゃなくて、自分でできることは自分したい。」

「家族にやさしくしたい。」

「家族に迷惑になるようなことはしない。」



家庭とは、子供にとって精神的、経済的に守られている場所であり、安心する場所でもあります。一方、「してもらって当たり前」という考えになりがちです。しかし、今回の学習を通して、家族の愛情に改めて気付くことで、自分も家庭生活を営む一員であり、自ら進んで家族と協力して楽しい家庭を作っていくように考えようになりました。